

一般社団法人鹿角青年会議所

2020年度 理事長所信

「はじめに」

平成が幕を閉じ、新たな時代が幕を開けた。

厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、
見事に咲き誇る梅の花のように
一人ひとりの日本人が明日への希望とともに、
それぞれの花を大きく咲かせることができる、
そうした日本でありたい

このような願いを込められた令和はどんな時代になるであろう。

(一社)鹿角青年会議所は2019年に創立35周年の節目を迎えました。私達は35周年を通して、創始から先輩諸賢が歩んでこられた歴史を振り返るとともに、鹿角地域の現状を踏まえ、未来へ向け、何をしていかなければならないのかを考えるチャンスをいただきました。

鹿角地域を取り巻く環境は、急速に進む超少子高齢化や若者の県外流出による人口減少、地域経済の低迷といった様々な課題が山積している状況です。これらの地域の課題に対し、このまちに住み暮らす青年経済人として、しっかりと向き合い未来を見据え率先して行動し続ける事が、このまちの未来に対する、我々の責任であり、担いであります。

創立宣言文にある、「若さと情熱を持って積極的に行動を起こし、常に自己を磨きつつ、後の世代に誇れる地域社会のリーダーたらん事を誓う」創立から受け継がれてきたこの想いを会員一人ひとりが今一度胸に刻み、鹿角地域に活動・運動の種をまき、まちの未来に向け大きな花を咲かせて参りましょう。

「会員の資質向上に関する事」

人生最後の学び舎と言われる青年会議所は様々な機会を提供する場であり、地域奉仕の機会・自己修練の機会・友情を育む機会があります。しかし、青年会議所に在籍しているだけでは、この機会を活かす事は出来ません。多くの学びや気づきを得るためには、青年会議所の理念や活動の意義を理解し、平等に与えられた自己成長の機会に自らの意思で飛び込み、その経験を自らに落とし込んでいく必要があります。個々が目的意識を明確に持ち自己投資の為、多くの機会を負担と捉えず、自己成長の「チャンス」と捉え、成長したいと思う心を醸成し同じ志を持った仲間

と共に覚悟を持って行動し続けましょう。

「会員拡大に関する事」

日本の青年会議所は全国的な会員数の減少が続き、LOMの減少など深刻な状況が続いております。(一社)鹿角青年会議所も例外ではありません。我々がこれからも持続的に運動を展開し続ける為にも、青年会議所の基本運動である会員拡大に対して、誰かがやるだろうという人任せの考えを無くし、一人ひとりが当事者意識を持って会員拡大に向き合わなければなりません。

全員が営業マンとして青年会議所の持つ多くの魅力を理解し、(一社)鹿角青年会議所の未来を見据え候補者に積極的にアプローチして行きましょう。

「まちづくりに関する事」

このまちや人が好きですか？

このまちに住むことに誇りを持っていますか？

このまちですっと暮らしていきますか？

全てに「はい」と即答できる人はどのくらいいるだろうか。

まちづくりはひとつとよく言われます。このまちに愛着と誇りを持つ人が増えれば、まちの未来を考える人が増え、様々な輪が生まれます。まちづくりに対する当事者意識を持った多くの人々の想いは鹿角地域にまだ見ぬ無限の可能性をもたらします。

青年会議所は明るい豊かな社会の実現を理想とした「市民意識変革団体」であります。我々が地域を巻き込み率先して行動し、人と人の輪を広げ能動的な人材を増やすことが、このまちの未来の為に必要と考えます。

「青少年育成に関する事」

現在の子供たちはソーシャルネットワークサービスの発達により、物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方、人間関係の希薄化、自制心や規範意識の低下、インターネットトラブルの低年齢化が問題視されています。そしてネット社会はこれからさらに加速し、今まで想定していなかった様々な弊害をもたらします。日々変わり続ける時代に対応できる柔軟さや順応力が求められると共に、自分の思いを押し通すのではなく相手の考えを汲み取り、共に協力し合う相互扶助の精神がこれからの社会で生き抜く為には必要不可欠です。

青少年育成委員会では未来を担う子供たちの結いの精神を育む事業を展開してまいります。

「終わりに」

迷う時もある

悩む時もある

不満な時もある

腹の立つこともある
辛い時もある
逃げ出したい時もある

しかし、これらを乗り越えた時にこそ成長出来る。
今日の自己犠牲を厭わず、まちの未来に思いを馳せ、理想を掲げ、支えてくれる多くの人達に感謝し、あえて険しい道のりを突き進む。
覚悟を持って未来に向けた確かな一歩を踏み出し続けよう。
素晴らしい令和の時代を創る為に

To be is to do

～ 覚悟を持って未来を創れ ～

一般社団法人鹿角青年会議所
2020年度 理事長 相馬 一文